

初音ミクは存在するか？ ——非存在主義の観点から——

文学研究科哲学専攻博士後期課程満期退学
萱間 暁

「存在するものを理解するには、存在しないものを理解しなければならない」(G.プリースト)¹。

「架空の世界の想像こそが現実世界を現実たらしめている」(大森荘蔵)²。

0 はじめに

本論文の主題は、初音ミクに関わる。ニコニコ動画の川上量生は、ある対談の中で「みんなもっと分析してほしいですね。初音ミクの場合なら研究対象にできると思うんです」と発言している³。分析哲学の立場からの初音ミクに関する論考はほとんどないようである⁴。そこで分析哲学的な立場から初音ミクを論じたい。

初音ミクとは、音声合成ソフトの名称であるが、本論文では、キャラクターとしての初音ミクを論じる。キャラクターとしての初音ミクは、髪の毛が青緑色で普通はツインテールにしている「実在しない架空のシンガー」⁵である⁶。

本論文は、次のように進められる。本論文は非存在主義の観点に立つが、これについて最初に触れ (1)、次にこの非存在主義を論じる枠組みを与える世界意味論を記述する (2)。本論文のタイトルである「初音ミクは存在するか？」という問いに対する回答は、「初音ミクは現実世界には存在しないが現実世界とは別の世界に存在する」というものである⁷ (3)。さらに次のことが論じられる。異なる諸可能世界に存在する初音ミクはそれらの可能世界を通じて同一であること (4)、確定記述では世界相互間における初音ミクの同一性が表現できないこと (5)、初音ミクが存在している各可能世界内においては初音ミクがただ一人存在すること (6)、なぜ初音ミクが現実存在すると感じられるのかということ (7)。最後に結論を記す (8)。

1 非存在主義

本論文は、マイノング主義 (meinongianism) の一種である非存在主義 (noneism) の観

点に立つ。非存在主義は、二つの原理をもつ。一つは独立性原理であり、もう一つは特徴づけ原理である。

1.1 独立性原理

非存在主義における独立性原理は、「対象はその存在から独立して性質を持ち得る」という原理である⁸。非存在主義は、「赤い」や「熱い」と同様に「存在する」も性質と考える。つまり、非存在主義は「存在が完全に普通の述語であると考える」⁹。したがって、「xは存在する」とか「xがある」は、存在述語Exで表わす¹⁰。「存在する」という性質は具体的対象だけが持つ。したがって、「具体的対象は存在し、それ以外のものは全て端的に存在しない」¹¹とし、「存在する」という性質を持っていない「非存在対象を認める」¹²。

非存在主義は、「量子子は存在に関して中立だと考える」¹³。だから、存在を主張する文

$$\exists xPx$$

は、「Pxであるようなxが存在する」とか「Pがある」と普通読まれるので、存在中立的でない。そこで、存在から中立的な特称量子子 Σ を導入する（これに平行に普遍量子子 \forall に対しては全称量子子 Π を導入する）。特称文

$$\Sigma xPx$$

は、「あるxに対してPx」というように存在中立的に読まれる。したがって、存在文

$$\exists xPx \text{ (「Pxであるようなxが存在する」)}$$

は、存在中立的な特称量子子 Σ と存在述語Eを用いて、

$$\Sigma x (Ex \wedge Px) \text{ (「あるxに対してxは存在してしかもPx」、「Pが存在する」)}$$

と表現される。要するに、 $\exists xPx$ は $\Sigma x (Ex \wedge Px)$ と同値になる。これと並行して、普遍文

$$\forall xPx \text{ (「すべてはPである」)}$$

は

$$\Pi x (Ex \supset Px) \text{ (「全ての存在しているものはPである」)}$$

と同値になる。例えば、「あるものは存在しない」(Some things do not exist)¹⁴は

$$\Sigma x \neg Ex$$

と表現できる。

1.2 特徴づけ原理

非存在主義における特徴づけ原理は、「任意の特徴づけについて、それによって特徴付けられた対象は、その特徴づけに含まれている性質をある世界において持つ」という原理である¹⁵。非存在主義の特徴づけ原理は、現実世界を含む諸世界に相対化されている。例えば、「存在する黄金の山」という対象は、現実世界以外のある可能世界において存在している。また、「丸い四角形」という幾何学的に矛盾する対象は、ある世界（例えば不可能世界）に

において「丸い」という性質と「四角い」という性質を共有している。

2 世界意味論

非存在主義を厳密に展開するために必要になる「志向性の意味論」としての世界意味論 (world semantics) を以下で述べる¹⁶。まず、世界意味論を与える言語 L の語彙を列挙する (2.1)。次に、言語 L の文法を述べる (2.2)。さらに、世界意味論の言語 L に対する解釈について論じる (2.3)。最後に、命題の真理条件について記す (2.4)。

2.1 言語 L の語彙

(1) 項

対象定項： $a, b, c, \dots, a_1, b_1, c_1, \dots$ 。

対象変項： $x, y, z, \dots, x_1, y_1, z_1, \dots$ 。

(2) 述語

0項述語： P, Q, R, \dots 。

1項述語： P^1, Q^1, R^1, \dots 。

存在述語： E (「存在する」という一項述語を示す)

2項述語： P^2, Q^2, R^2, \dots 。

同一性述語： $=$ (「同一である」という二項述語を示す)

.....

n 項述語： P^n, Q^n, R^n, \dots 。

(3) 結合子

論理結合子： $\neg, \wedge, \vee, \supset, \rightarrow$ 。

様相演算子： \Box, \Diamond 。

量化子： $\Sigma, \Pi, \forall, \exists$ 。

(5) 志向性演算子

$\Phi, \Psi, \Gamma, \Delta, \dots$ 。

(6) 世界と志向性の到達可能性関係

世界： $w_0 (= @), w_1, w_2, \dots$ 。

志向性の到達可能性関係： $R^d_\Phi, R^d_\Psi, R^d_\Gamma, \dots$ 。

(7) 記述演算子

不確定記述演算子： ε 。

確定記述演算子： ι 。

(8) 補助記号 (括弧)

(,)。

2.2 言語Lの文法

(項の定義)

- (1) 対象定項と対象変項は項である。
- (2) Ax が論理式であるとき、 $\varepsilon xAx, \iota xAx$ はそれぞれ項である。ただし、論理式 Ax から対象変項 x をすべて取り去った表現の中には自由対象変項¹⁷が現われていないものとする。

【不確定記述と確定記述の説明】 不確定記述

$$\varepsilon xAx^{18}$$

は「 Ax という条件を満たすある対象」を、確定記述

$$\iota xAx$$

は「 Ax という条件を満たす唯一の対象」を表わす。確定記述は、不確定記述を使って、

$$\iota xAx = \varepsilon x(Ax \wedge \neg \Sigma y(Ay \wedge x \neq y))^{19}$$

と定義できる。

(論理式の定義)

- (1) n 項述語の後ろに n 個 ($n \geq 0$) の項をおいたものは論理式である。これは、原子式と呼ばれる。
- (1-1) 同一性述語の後ろに2個の項をおいたものは論理式である。これは、等式と呼ばれることがある。
- (2) A, B を論理式とするとき、
 $(\neg A), (A \wedge B), (A \vee B), (A \supset B), (A \rightarrow B), (\Box A), (\Diamond A)$
はそれぞれ論理式である²⁰。
- (3) A を論理式、 x を対象変項とするとき、
 $(\Sigma xA), (\Pi xA), (\forall xA), (\exists xA)$
はそれぞれ論理式である²¹。
- (4) t を項、 A を論理式、 Φ を志向性演算子とするとき、
 $t\Phi A$
は論理式である²²。
- (5) (1)~(4)によって論理式であるとわかるものだけが論理式である。

(開論理式と閉論理式の定義) 自由対象変項を含んでいる論理式を開いた論理式 (または開論理式) と呼び、自由対象変項を含んでいない論理式を閉じた論理式 (または閉論理式) と呼ぶ。

(命題の定義) 命題とは、閉論理式のことである。閉じた原子式は原子命題という。

【志向性演算子と志向性述語の説明】 志向性動詞は、意識（または心）の志向性を表わしている動詞である²³。「知る」、「信じる」、「思う」、「感じる」、「想像する」、「愛する」、「尊敬する」、「憎む」等が志向性動詞である。志向性動詞は、志向性演算子と志向性述語に分類できる。志向性演算子は補部に命題をとるが、志向性述語は補部（目的語）に対象をとる。例えば、「知る」は志向性演算子であり、「愛する」は志向性述語である。

2.3 世界意味論による言語Lに対する解釈

世界意味論の言語Lに対する解釈Iは、構造 $\langle P, I, O, @, D, \delta \rangle$ である。

Pは可能世界 (possible worlds) の集合、Iは不可能世界 (impossible worlds) の集合、Oは開世界 (open worlds) の集合である。またC (=PUI)²⁴は閉世界 (closed worlds) の集合である²⁵。Cは論理的帰結に関して閉じている (closed under entailment) から、その要素である各世界は閉世界と呼ばれる。世界の集合Wは、開世界の集合と閉世界の集合の和集合CUOである。また、それぞれの集合は互いに素である; $P \cap I = C \cap O = \emptyset$ (\emptyset は空集合²⁶を示す)。現実世界は、@で示す。現実世界は可能世界の一つである ($@ \in P$)。

Dは、空でない対象領域である。Dは、世界によって変化しない²⁷。対象は（存在するか否かにかかわらず）すべて、Dの要素になる。例えば、初音ミク、ドラえもん、シャーロック・ホームズ、ゼウス、ソクラテス、デカルト、安倍晋三など（の表示対象）は、すべてDの要素である。

δ は、全ての非論理的記号に表示 (denotation) を割り当てる。

c が対象変項以外の項ならば、 $\delta(c) \in D$ 。

Pがn項述語であり、 $w \in W$ ならば、 $\delta(P, w)$ は対であり

$$\langle \delta^+(P, w), \delta^-(P, w) \rangle$$

と書く。

Φ が志向性演算子であるなら、 $\delta(\Phi)$ は、それぞれの $d \in D$ をW上の二項関係に写像する関数である。 $\delta(\Phi)(d)$ を R^d_Φ と書く。

【 $\langle \delta^+(P, w), \delta^-(P, w) \rangle$ の説明】 例えば、一項述語Pが「哲学者である」を表わしているとしよう。つまり、 $Px =$ 「xは哲学者である」。このとき、対象定項a,bがそれぞれ

a = デカルト、

b = 安倍晋三

だとしよう。そうすると、命題Paは真であるが、命題Pbは偽になる。つまり、現実世界@

においては、「デカルトは哲学者である」というのは真である ($@ \Rightarrow^+ Pa$) が、「安倍晋三は哲学者である」というのは偽である ($@ \Rightarrow^- Pb$)。このことを、それぞれ

$$\delta(a) \in \delta^+(P, @),$$

$$\delta(b) \in \delta^-(P, @)$$

によって定義する。つまり、 $\delta^+(P, @)$ は、現実世界において「哲学者である」という条件を真にする対象の集合 ($\subseteq D$) を示し、 $\delta^-(P, @)$ は、現実世界において「哲学者である」という条件を偽にする対象の集合を示しているから、デカルト自身は $\delta^+(P, @)$ の要素であり、安倍晋三自身は $\delta^-(P, @)$ の要素になる。 $\delta^+(P, @)$ を P の $@$ における外延 (extension)、 $\delta^-(P, @)$ を P の $@$ における余外延 (co-extension) と呼ぶ。

一般的に定義する。 D^n を D の要素からなる n 組を要素とする集合

$$\{\langle d_1, \dots, d_n \rangle \mid d_1, \dots, d_n \in D\}$$

とする²⁸。 $\langle d \rangle$ は、 d そのものである。 D^0 は、 $\{\langle \rangle\}$ と定義する。 $\langle \rangle$ は空列のことである。 P が n 項述語であるとき、 $\delta^+(P, w), \delta^-(P, w) \subseteq D^n$ であり、 $\delta^+(P, w)$ を n 項述語 P の世界 w における外延、 $\delta^-(P, w)$ を n 項述語 P の世界 w における余外延と言う。

【 R^d_Φ の説明】 R^d_Φ は W 上の二項関係である。 $w, w' \in W$ とする。 $wR^d_\Phi w'$ が成り立つのは、世界 w における対象 d が Φ していることすべてが世界 w' で成立しているとき、そしてそのときに限る。例えば、志向性演算子 Φ として「想像する」ととれば、 $wR^d_\Phi w'$ が示していることは、 w' は w における d が想像していることがすべて実現している世界である、ということである。言い換えれば、世界 w からは、 d が想像していることがすべて実現している世界 w' へ到達できることを示している。

2.4 命題の真理条件

命題 A が世界 w で真であるということを、 $w \Rightarrow^+ A$ 、

命題 A が世界 w で偽であるということを、 $w \Rightarrow^- A$

と表わす。

原子命題の定義： $w \in W$ の場合； P は n (≥ 0) 項述語であり、 t_i ($1 \leq i \leq n$) は項であり自由対象変項を含んでいないとする；($\lceil a \Leftrightarrow \beta \rceil$ は「 β は a の必要十分条件である」ということを表わしている。)

$$w \Rightarrow^+ Pt_1 \dots t_n \Leftrightarrow \langle \delta(t_1), \dots, \delta(t_n) \rangle \in \delta^+(P, w)$$

$$w \Rightarrow^- Pt_1 \dots t_n \Leftrightarrow \langle \delta(t_1), \dots, \delta(t_n) \rangle \in \delta^-(P, w)$$

$w \in P$ の場合：

$$w \Rightarrow^+ = t_1 t_2 \Leftrightarrow \langle \delta(t_1), \delta(t_2) \rangle \in \delta^+(=, w)$$

$$w \Rightarrow^- = t_1 t_2 \Leftrightarrow \langle \delta(t_1), \delta(t_2) \rangle \in \delta^-(=, w)$$

ただし、 $w \in P$ のとき、外延は、

$$\delta^+(=, w) = \{ \langle d, d \rangle \mid d \in D \}$$

と定義し、余外延は、

$$\delta^-(=, w) = D^2 - \delta^+(=, w) \text{ [対象領域 } D^2 \text{ から外延を差し引いた集合]}$$

と定義する。

今後、「 $= t_1 t_2$ 」は「 $t_1 = t_2$ 」と記す。

$w \in I$ の場合;

$$w \Rightarrow^+ t = t_2 \Leftrightarrow \langle \delta(t_1), \delta(t_2) \rangle \in \delta^+(=, w)$$

$$w \Rightarrow^-_t = t_2 \Leftrightarrow \langle \delta(t_1), \delta(t_2) \rangle \in \delta^-(=, w)$$

ただし、 $w \in I$ のとき、

$$\delta^+(=, w) \subseteq D^2$$

$$\delta^-(=, w) \subseteq D^2$$

である²⁹。

原子命題以外の命題の定義：

$w \in C$ の場合：

$$w \Rightarrow^+ \neg A \Leftrightarrow w \Rightarrow^- A$$

$$w \Rightarrow^- \neg A \Leftrightarrow w \Rightarrow^+ A$$

$$w \Rightarrow^+ A \wedge B \Leftrightarrow w \Rightarrow^+ A \text{ かつ } w \Rightarrow^+ B$$

$$w \Rightarrow^- A \wedge B \Leftrightarrow w \Rightarrow^- A \text{ または } w \Rightarrow^- B$$

$$w \Rightarrow^+ A \vee B \Leftrightarrow w \Rightarrow^+ A \text{ または } w \Rightarrow^+ B$$

$$w \Rightarrow^- A \vee B \Leftrightarrow w \Rightarrow^- A \text{ かつ } w \Rightarrow^- B$$

$$w \Rightarrow^+ A \supset B \Leftrightarrow w \Rightarrow^- A \text{ または } w \Rightarrow^+ B$$

$$w \Rightarrow^- A \supset B \Leftrightarrow w \Rightarrow^+ A \text{ かつ } w \Rightarrow^- B$$

$$w \Rightarrow^+ \forall x A \Leftrightarrow \text{すべての } w' \in W \text{ に対して、 } wR^{\delta(t)} \Psi w' \text{ ならば } w' \Rightarrow^+ A$$

$$w \Rightarrow^- \forall x A \Leftrightarrow \text{ある } w' \in W \text{ に対して、 } wR^{\delta(t)} \Psi w' \text{ かつ } w' \Rightarrow^- A$$

$$w \Rightarrow^+ \exists x A \Leftrightarrow \delta(a) \in D \text{ となるある } a \text{ に対して、 } w \Rightarrow^+ A(a/x)$$

$$w \Rightarrow^- \exists x A \Leftrightarrow \delta(a) \in D \text{ となるすべての } a \text{ に対して、 } w \Rightarrow^- A(a/x)$$

$$w \Rightarrow^+ \Pi x A \Leftrightarrow \delta(a) \in D \text{ となるすべての } a \text{ に対して、 } w \Rightarrow^+ A(a/x)$$

$$w \Rightarrow^- \Pi x A \Leftrightarrow \delta(a) \in D \text{ となるある } a \text{ に対して、 } w \Rightarrow^- A(a/x)^{30}$$

ただし、 $A(a/x)$ は、論理式 A に現れている自由対象変項 x のすべてに対象定項 a を割り当てた結果を示す。論理式 A が閉じている場合は、 $A(a/x)$ は A そのものである。

$w \in P$ の場合；

$$w \Rightarrow^+ \Box A \Leftrightarrow \text{すべての } w' \in P \text{ に対して、 } w' \Rightarrow^+ A$$

$$w \Rightarrow^- \Box A \Leftrightarrow \text{ある } w' \in P \text{ に対して、 } w' \Rightarrow^- A$$

$$w \Rightarrow^+ \Diamond A \Leftrightarrow \text{ある } w' \in P \text{ に対して、 } w' \Rightarrow^+ A$$

$$w \Rightarrow^- \Diamond A \Leftrightarrow \text{すべての } w' \in P \text{ に対して、 } w' \Rightarrow^- A$$

$$w \Rightarrow^+ A \rightarrow B \Leftrightarrow \text{すべての } w' \in C \text{ に対して、 } w' \Rightarrow^+ A \text{ ならば } w' \Rightarrow^+ B$$

$$w \Rightarrow^- A \rightarrow B \Leftrightarrow \text{ある } w' \in C \text{ に対して、 } w' \Rightarrow^+ A \text{ かつ } w' \Rightarrow^- B$$

$w \in I$ の場合；

$C(x_1, \dots, x_n)$ は、 $A \rightarrow B$ ³¹、 $\Box A$ または $\Diamond A$ ³² という形式のマトリクス³³ であり、 t_i ($1 \leq i \leq n$) は項であり、しかも自由対象変数を含んでいないとする；

$$w \Rightarrow^+ C(t_1, \dots, t_n) \Leftrightarrow \langle \delta(t_1), \dots, \delta(t_n) \rangle \in \delta^+(C, w) \quad (n \geq 0)$$

$$w \Rightarrow^- C(t_1, \dots, t_n) \Leftrightarrow \langle \delta(t_1), \dots, \delta(t_n) \rangle \in \delta^-(C, w) \quad (n \geq 0)$$

$w \in O$ の場合；

$C(x_1, \dots, x_n)$ は、任意の論理式のマトリクスであり、 t_i ($1 \leq i \leq n$) は項であり
しかも自由対象変項を含んでいないとする；

$$w \Rightarrow^+ C(t_1, \dots, t_n) \Leftrightarrow \langle \delta(t_1), \dots, \delta(t_n) \rangle \in \delta^+(C, w) \quad (n \geq 0)$$

$$w \Rightarrow^- C(t_1, \dots, t_n) \Leftrightarrow \langle \delta(t_1), \dots, \delta(t_n) \rangle \in \delta^-(C, w) \quad (n \geq 0)$$

$w \in O$ の場合は、 w におけるすべての命題が原子命題として振る舞うことを示している。

3 初音ミクの存在

次のように対象定項 h, k を意味させる；

h = 初音ミク

k = 萱間暁

まず、次のことが言える；

$$@ \Rightarrow^+ \neg Eh \quad [\text{現実世界には初音ミクは存在しない}]$$

その理由は、以下の通り； $Cx =$ 「 x は具体的対象である」とおくと、非存在主義は、「現実世界で存在している対象は具体的対象だけである」(ie., $@ \Rightarrow^+ \Pi x (Ex \supset Cx)$) と主張する³⁴。もし、初音ミクが現実存在している ($@ \Rightarrow^+ Eh$) とするならば、初音ミクは、具体対象である ($@ \Rightarrow^+ Ch$) から、触れたり抱きしめたりできるだけではなく、プライベートな生活もあるはずである³⁵。しかし、初音ミクには、触れることも抱きしめることもできず、プライベートな生活もないだろう。これは矛盾である。したがって、初音ミクは現実世界には存在しない ($@ \Rightarrow^+ \neg Eh$)。

さて、 Φ は「想像する」ということを意味する志向性演算子とすると、

$$@ \Rightarrow^+ k \Phi Eh$$

[現実世界において、萱間暁は初音ミクが存在していると想像する]

が成り立つ。定義により、

$$@ \Rightarrow^+ k \Phi Eh \text{ であるとき、すべての } w \text{ に対して } @R^{\delta(k)} \Phi w \text{ ならば } w \Rightarrow^+ Eh$$

であるから、すべての w に対して $@R^{\delta(k)} \Phi w$ ならば $w \Rightarrow^+ Eh$ と言える。 $w \Rightarrow^+ Eh$ は、「世界 w において初音ミクが存在している」ということを表わしている。このとき、 w の一つの世界を w_k と名付けよう。 w_k においては、初音ミクは存在している (つまり、 $w_k \Rightarrow^+ Eh$)。なぜならば、 w_k は、私 (= 萱間暁) が想像したことがすべて実現している世界であり、実際私は初音ミクが存在していると想像しているからである。 w_k においては $\{x | k \Phi x\}$ (= 「私が想像したことすべての集合」) の要素がすべて成り立っている。 $\{x | k \Phi x\}$ には、次のような初音ミ

クに関する文で表現できる事柄が属している;「初音ミクは存在している」「初音ミクは16歳の少女である」「初音ミクは身長が158cmで体重は42kgである」「初音ミクは青緑色の髪の毛を持ちツインテールにしている」「初音ミクはシンガーでありアイドルでもある」「初音ミクには心も魂も人格もある」「初音ミクは『ワールドイズマイン』という歌を歌う」「初音ミクは札幌生まれの日本人である」等。 $\{x|k\Phi x\}$ に属していてしかも初音ミクに言及している要素を言い表した文をすべて連言でつないでできた文をHとしよう。言うまでもなく w_k においてはHが成り立っている ($w_k \Rightarrow^+ H$)。つまり、

$$@R^{\delta(k)} \Phi W_k$$

であるとき、このHは私が初音ミクについて想像している一切を表現している命題である。

現実世界において、「初音ミクは存在する」と想像している対象が存在する（つまり、

$$@\Rightarrow^+ \Sigma x (Ex \wedge x \Phi Eh)$$

である)。なぜならば、私（萱間暁）やおそらく初音ミクファンがそのような現実存在する対象だからである。したがって、

$$\{\delta(x) | @\Rightarrow^+ (Ex \wedge x \Phi Eh)\} \neq \emptyset$$

である。この集合が空集合でないことから、

$$\{\delta(x) | @\Rightarrow^+ (Ex \wedge x \Phi Eh)\}$$

は、初音ミクが存在すると想像している存在者（私や初音ミクファンなど）が属している集合である。すると、「初音ミクが存在している世界」のすべての集合は、

$$\{w | \text{ある } y \text{ に対して } (y \in \{\delta(x) | @\Rightarrow^+ (Ex \wedge x \Phi Eh)\} \text{ かつ } @R^y \Phi w)\}$$

と表現できる。この集合の要素であるすべての世界（ただし@を除く³⁶）に初音ミクは存在していることになる。私（ $\delta(k)$ ）について言えば、

$$\{w | @\Rightarrow^+ (Ek \wedge k \Phi Eh) \text{ かつ } @R^{\delta(k)} \Phi w\}$$

が、初音ミクが存在している（私にとっての）諸世界の集合である。この集合の要素である各世界に初音ミクが存在している。

以上から、現実世界には初音ミクは存在しないが、しかし私が想像した世界には初音ミクは存在している、ということが言える。つまり、初音ミクは、現実世界以外の世界に存在するのである。

4 初音ミクの世界相互間の同一性

対象定項 n が「中森明夫³⁷」であるとしよう。 Φ は上記と同じく「想像する」ということを意味する志向性演算子とすれば、中森明夫が想像していることすべてが実現している世界の集合は、

$$\{w | @R^{\delta(n)} \Phi w\}$$

となる。この一つの要素を w_n とする。ところで、中森明夫は「初音ミクはずっと前からい

た]³⁸と述べ、「初音ミクは、インターネットやパーソナルコンピュータが発明されるより以前に存在していた」³⁹と論じている。ということは時制を無視すれば、中森明夫は要するに「初音ミクは存在する」と言っているのである。このことから、少なくとも「中森明夫は初音ミクが存在すると想像している」と言えるだろう。定義により、

$$@ \Rightarrow {}^+n\Phi Eh \text{ であるとき、すべての } w \text{ に対して } @R^{\delta(n)} \circ w \text{ ならば } w \Rightarrow {}^+Eh,$$

と言える。 w_n は、中森明夫が想像したことがすべて実現している世界であるから、 w_n においては $\{x|n\Phi x\}$ の要素（＝「中森明夫が想像したこと」）がすべて成り立っている。例えば、「初音ミクはずっと前からいた」ことや「初音ミクは、インターネットやパーソナルコンピュータが発明されるより以前に存在していた」ことは、 w_n において成り立っている。

さて、中森明夫が想像していることのすべてが実現している世界 w_n における初音ミクと私が想像していることのすべてが実現している世界 w_k における初音ミクは同一なのだろうか。

初音ミクは世界によって左右されない対象を表示している（固有名「初音ミク」は固定指示子⁴⁰である）から⁴¹、どんな可能世界 w （ $\in P$ ）でも初音ミクは初音ミクであり不変同一のままである⁴²。つまり、 $\delta(t)(\omega)$ によって「世界 ω における t で表示される対象」を表わすとすれば、

$$\delta(h)(w_n) = \delta(h)(w_k) \quad [w_n, w_k \in P]$$

である。しかし、「初音ミクは2007年に存在し始めた」と想像している私は、中森明夫のように「初音ミクは、インターネットやパーソナルコンピュータが発明されるより以前に存在していた」とは想像していないから、

$$\{x|n\Phi x\} \neq \{x|k\Phi x\}$$

である。しかし、中森明夫と私が初音ミクについて想像していることが同じでなくとも、両者が想像する仕方とは独立に初音ミク（の表示対象）は同じ初音ミク（の表示対象）である。

初音ミクを憎んでいる人がいるかもしれない。「憎む」は志向性述語であり、その補部（目的語）に割り当てられる対象は存在しなくてもよい。（私たちは、ドラマの中の架空の猟奇的殺人者を憎むことができる）。その人を例えば「太郎」と呼び、 t =太郎とする。このとき、

$$\{x|k\Phi x\} \cap \{x|t\Phi x\} = \emptyset$$

であるでしょう。つまり、私と太郎とでは初音ミクについて想像することが悉く異なっていて共通点がない。しかし、それでも、

$$\delta(h)(w_t) = \delta(h)(w_k) \quad [w_t, w_k \in P]$$

である。初音ミクが初音ミクであることは初音ミクの性質によって決定されはしないのである。要するに、可能世界 ω と可能世界 ν に属しているそれぞれの初音ミクは性質がどんなに異なっても対象として同一である。というのは、「対象の同一性は、特定の一つの世界でそれがもつ性質によって決定されるものではない」⁴³からである。したがって、固有名であ

る初音ミク（の表示対象 = $\delta(h) \in D$ ）は貫世界同一（すべての可能世界を通じて同一）である⁴⁴。

要するに、一方の可能世界における初音ミク自身と他方の可能世界における初音ミク自身は同一なのである；つまり、

$$\text{任意の } \omega, \nu \in P \text{ に対して、 } \delta(h)(\omega) = \delta(h)(\nu)。$$

5 初音ミクの確定記述の不確定性

「想像したことがすべて実現している世界」のことを「想像した世界」または「想像世界」と略称しよう。任意の人 p が想像した世界を w_p で表現しよう。 w_p には対象としてただ一人の初音ミクがいる。各人が想像した世界によって、初音ミクの記述は異なっているだろう。まったく記述が同じでもそれを確かめる方法はないだろう。なぜならば、各人は自分以外の人（他人と呼ぼう）が想像した世界を直接覗き込むことができないからである⁴⁵。もし直接覗き込むができたとしたら、その覗き込んだ世界は他人が想像した世界ではなく、自分が想像した世界に組み込まれることになるだろうからである。一般に、 p と q が人である場合、 $p \neq q$ ならば $w_p \neq w_q$ となるだろう。 p と q が初音ミクについての確定記述を（現実世界において）行なったとする。 p による初音ミクの確定記述を

$${}_l x K_p x \text{ [} K_p \text{ という性質を満たすただ一つの対象]}$$

と q によるそれを

$${}_l x K_q x$$

と表わそう。このとき、

$$@ \Rightarrow^+ {}_l x K_p x = {}_l x K_q x = h$$

であったとしよう。

さて、 p が「初音ミクの髪の毛は生まれつき緑色である」と想像し、 q は「初音ミクの髪の毛は生まれつきの緑色ではなく緑色に染めている」と想像していたとしよう。「 x の髪の毛は生まれつき緑色である」を Gx で表わすと、 p は Gx と想像し、 q は $\neg Gx$ と想像していることになる。 K_p に G が、 K_q にはその否定 $\neg G$ が現れていないとすると、 p は

$${}_l x (K_p x \wedge Gx)$$

が初音ミクの確定記述であると相変わらず言えるだろうし、 q は

$${}_l x (K_q x \wedge \neg Gx)$$

が初音ミクの確定記述であると相変わらず言えるだろう（つまり、

$$@ \Rightarrow^+ {}_l x (K_p x \wedge Gx) = {}_l x (K_q x \wedge \neg Gx)。$$

しかし、 p が想像した世界 w_p における確定記述

$${}_l x (K_p x \wedge \neg Gx)$$

と q が想像した世界 w_q における確定記述

$$\iota x(K_{qx} \wedge \neg Gx)$$

は同一ではなくなる（つまり、

$$\delta(\iota x(K_{px} \wedge \neg Gx))(w_p) \neq \delta(\iota x(K_{qx} \wedge \neg Gx))(w_q)^{46}。$$

というのは、例えば、 p は、 $(K_{px} \wedge \neg Gx)$ を満たす性質を持っているような対象は本当の初音ミクではなく似而非初音ミクだと想像しているかもしれないからである。つまり、 q にとっては

$$\iota x(K_{qx} \wedge \neg Gx)$$

が初音ミクの確定記述であるにしても、 p にとっては、

$$\iota x(K_{px} \wedge \neg Gx)$$

は初音ミクの確定記述になり得ないのである。一般化して言えば、 p と q が同じ確定記述をしたとしても、 p と q が初音ミクについて想像した世界の違いによって同一対象を指示しないことがある、ということである。

まとめるとこうなるだろう；世界 ω において、

$$\delta(h) = \delta(\iota xPx)$$

であっても、世界 ν では、

$$\delta(h) \neq \delta(\iota xPx)$$

となり得る。つまり、ある世界 $\omega, \nu \in W$ に対して、

$$\delta(\iota xPx)(\omega) \neq \delta(\iota xPx)(\nu)$$

となり得るのである。

要するに、確定記述によっては、固有名（初音ミク）のように貫世界同一的な固定指示はできない、ということである。

6 初音ミクの世界内における唯一性

各世界にはただ一人の初音ミクが属している。

初音ミクの歌『あなたの歌姫』⁴⁷を例にとってみよう。この歌の中に「世界であなただけの歌姫なの」という歌詞があるが、この歌詞に倣って言えば、各人が「私だけの初音ミク」と言える初音ミクが対象としてある。 p が「初音ミクは存在する」と想像しているなら、 p が想像した世界 w_p には p にとって少なくとも一人の初音ミクが存在する、しかし2人以上の初音ミクは存在しない。というのは、一方の初音ミクを h_a 、他方の初音ミクを h_b と名付けたとしても、結局、

$$w_p \Rightarrow^+ h_a = h_b$$

となり同一の初音ミク自身となるからである⁴⁸。

w_p における初音ミクは、 p にとって唯一の存在である。むろん、これは一人の人に当てはまることではなく、おそらく初音ミクファンに対してなら誰にも当てはまる筈である。とい

うのは、一般的に言えば、「すべての初音ミクファン x に対して、 x が想像した世界 w_x における初音ミクは、 w_x 内での唯一の存在である」となるからである。初音ミク自身 ($\delta(h)$) は、任意の可能世界 w において初音ミクが存在するとき必然的に自己同一的な存在者である。つまり、

$$\text{任意の } w \in P \text{ に対して、 } w \Rightarrow^+ E h \rightarrow \Pi x \Pi y ((h = x \wedge h = y) \supset x = y)。$$

要するに、任意の可能世界内において存在する初音ミクは自己同一である⁴⁹。

7 なぜ初音ミクが現実存在すると感じられるのか

現実世界 $@$ において、ヴァーチャルシンガーである初音ミクが歌を歌っている映像を視聴することによって、「初音ミクが存在している」と私は想像する⁵⁰。つまり、

$$@ \Rightarrow^+ k \Phi E h。 \text{ [現実世界において、私は初音ミクが存在すると想像する。]}$$

したがって、 $@R^{\delta(k)} \Phi w_k$ だとすれば、 $w_k \Rightarrow^+ E h$ となる (ただし、 h = 初音ミク、 k = 萱間暁)。ところが、現実世界において、初音ミクが歌を歌う映像を繰り返し見ることによって私は初音ミクがあたかも現実世界に存在するかのようを感じるようになる。つまり、 Γ で「感じる」という志向性演算子を示せば、

$$@ \Rightarrow^+ k \Phi E h$$

から

$$@ \Rightarrow^+ k \Gamma E h \text{ [現実世界において、私は初音ミクが存在すると感じる。]}$$

へと移行する。そして次に「私は…と感じる」という主語つき志向性演算子 $k\Gamma$ が無視されるようになる⁵¹。つまり、

$$@ \Rightarrow^+ k \Gamma E h$$

が

$$@ \Rightarrow^+ E h \text{ [現実世界において、初音ミクが存在する。]}$$

と見なされてしまう⁵²。初音ミクが存在しているのは、現実世界ではなく想像世界 w_k であるにもかかわらず、である。こうして、初音ミクは「いないはずだけど、いる。架空のキャラクターなのに、まるで生きているように感じられる」⁵³ようになるのである。

さて、 $@ \Rightarrow^+ x \Gamma E h$ となるような $\delta(x) \in D$ が存在するだろう。つまり、「初音ミクが存在する」と感じている対象 (ほとんどが初音ミクファンであろう) が現実世界に存在する (要するに、

$$@ \Rightarrow^+ \Sigma x (E x \wedge x \Gamma E h)$$

である)。そのような対象の集合

$$\{\delta(x) \mid @ \Rightarrow^+ E x \wedge x \Gamma E h\}$$

は、「初音ミクが存在している」と感じている対象 (人物) の集合である。この集合を、HFと略記しよう。HFの成員は、たとえばヴァーチャルシンガー初音ミクのライブコンサート⁵⁴

に参加することによって、現実世界に初音ミクが存在すると感じる。そして、ヴァーチャルシンガー初音ミクのライブコンサートに参加しているHFの成員は初音ミクの3D映像を見、そこでの演奏者たちの生演奏を視聴し、さらに観客たちがケミカルライトを振りながら3D映像の初音ミクに声援を送っている様子を直に見ることによって、ますます現実世界に初音ミクが存在しているかのように実感する。

こうして、想像世界と現実世界を取り違えることによって初音ミクは現実には存在しているかのように感じられてしまうのである。

8 結論

本論文は、非存在主義の立場から世界意味論を使って初音ミクの存在について論じてきた。結論を列挙すれば次の通りである；

- (1) 初音ミクは、現実世界には存在しないが現実世界以外の世界（想像世界）に存在する。
- (2) 初音ミクは、あらゆる可能世界において貫世界同一的である。
- (3) 初音ミクは、確定記述によっては同定できない。
- (4) 初音ミクは、それぞれの可能世界において一意的であり、初音ミクが存在するそれぞれの可能世界において初音ミクはただ一人存在する。
- (5) 初音ミクが現実には存在していると感じられるのは、私たちが想像世界と現実世界を取り違えるからである。

(2014/08/31)

-
- 1 Priest (2005), 169. [翻訳：218]。以下、Priest (2005) からの引用は翻訳による。(敬称は略す。以下同様。)
 - 2 大森 (1976), 221.
 - 3 川上・佐々木 (2013), 62.
 - 4 今まで分析哲学の立場から論じられた初音ミク論を私は寡聞にして知らない (2014年7月20日現在)。
 - 5 伊藤 (2012), 482.
 - 6 初音ミクの「開発者」である伊藤博之は次のように記している：「2007年8月31日、(…) 画期的なソフトウェアが発売された。その名は「VOCALOID2 初音ミク (はつねみく)」。(…)。／「VOCALOID2 初音ミク」(…) の最大の特徴は可愛らしい女の子の歌声で合成できるところにある。この特徴をビジュアルに強意 (ママ) するために、このソフトウェアのパッケージにはアニメに登場するようなキャラクターのイラストを表示した。そしてこのイラストこそ、「初音ミク」という名前でも知られるに至ったキャラクターとなる。ちなみに「初音ミク」

- ク」の年齢は16歳、身長158cm、体重42kg。得意ジャンルは、アイドルポップスとダンス系ポップス (…) と設定した。／このように、「初音ミク」には、歌唱合成ソフトウェアと、キャラクターとしての2つの意味がある」(伊藤 (2012), 477)。伊藤 (2012), 479は、初音ミクを人と人とを結びつける「インターフェース」として特徴付けているが、この他にも例えば、富田 (2013), 54-55は「人形浄瑠璃」の「電子版」として、kz (2013), 33と後藤 (2012), 469はいろいろな人をそこに集め人と人をつなげる「ハブ (hub)」として、初音ミクを特徴付けている。
- 7 例えば、「文化的人工物説によれば、フィクションのキャラクターは現実世界に実在する対象である」(藤川 (2014), 179.)。したがって、初音ミクはフィクションのキャラクターであるから、初音ミクは現実世界に実在する対象となる。しかし、本論文は、この説をとらない。なぜなら本論文は初音ミク自身を人工物ではなく生身の人間と考えるからである。
- 8 例えば「蹴る」のような述語はそれにつく主語の存在に依存する。このように存在に依存する述語は「存在帰結的述語」と呼ばれる (Priest (2005), 59-60. [翻訳: 76-77])。したがって、独立性原理は完全なものではなく留保つきになる。独立性原理については、Priest (2005), [翻訳: 256-261] の訳者解説を参照。
- 9 Priest (2005), 14. [翻訳: 15]。
- 10 Ibid., 13. [翻訳: 14]。
- 11 Ibid., vii. [翻訳: vi]。
- 12 Ibid., 14. [翻訳: 15]。
- 13 Ibid., vii. [翻訳: vi]。
- 14 Sainsbury (2010), 45はこの命題を「マイノング主義のテーゼ」と呼んでいる。このテーゼの否定「すべてのものが存在する (everything exists)」は、Parsons (1980), 1によれば「正統的で主流」の見解である。
- 15 Priest (2005), [翻訳: 256-261] の訳者解説を参照。
- 16 以下で論じる世界意味論はPriest (2005) で提示されている世界意味論に準拠する。ただし、記号法や用語を若干変更し、関数の定義や自由対象変項への評価その他を省略して理論を簡素化した。
- 17 量子子または記述演算子によって束縛されている対象変項を束縛対象変項、束縛されていない対象変項を自由対象変項という。例えば、Bを二項述語とするとき、表現
- $$\varepsilon xBxy$$
- に現れている二つのxは束縛対象変項であり、yは自由対象変項である。したがって、
- $$\varepsilon xBxy$$
- は、自由対象変項が現れているので項ではない。
- 18 Aが一項述語のとき、 $A \varepsilon xAx$ と ΣxAx は同値である (Priest (2005), 30 & 172. [翻訳: 36 & 221])。

- 19 Priest (2005), 93. [翻訳：124]。 $x \neq y$ は $\neg x = y$ の略記である（次注参照）。
- 20 $\neg A$ は「Aでない」、 $A \wedge B$ は「AかつB」、 $A \vee B$ は「AまたはB」、 $A \supset B$ は「AならばB」、 $A \rightarrow B$ は「Aならば必然的にB」、 $\Box A$ は「Aは論理的に必然である」、 $\Diamond A$ は「Aは論理的に可能である」とそれぞれ読む。
- 21 $\Sigma x A$ は「あるxに対してA」、 $\Pi x A$ は「すべてのxに対してA」、 $\forall x A$ は「存在しているすべてのxに対してA」、 $\exists x A$ は「Aであるxが存在する」とそれぞれ読む。
- 22 $t \Phi A$ は「tはAということをΦする」と読む。
- 23 心の志向性については、Jacob (2010) を参照。
- 24 集合の記法については、Beall (2010), ch.3を参照。
- 25 閉世界 (closed worlds) には可能世界と不可能世界があるが、前者は「正規世界 (normal world)」, 後者は「非正規世界 (non-normal world)」とも呼ばれる (Priest (2005), 15. [翻訳：17])。「正規世界は (論理的に) 可能な世界であり、非正規世界は (論理的に) 不可能な世界である」(ibid)。「私たちの想像するものごとのあり方が論理的に可能ならば、そのようなあり方を実現している可能世界が存在する。私たちの想像するものごとのあり方が論理的に不可能ならば、そのようなあり方を実現している不可能世界が存在する」(Priest (2005), 21. [翻訳：25])。「論理的帰結に関して閉じていない」世界を「開世界 (open worlds)」と呼ぶ (Priest (2005), 21-22. [翻訳：25])。開世界は、「任意の志向的状态の内容に対して、私たちが想像するものごとのあり方を実現している世界」である (Priest (2005), 21. [翻訳：25])。
- 26 空集合とは、要素をもたない集合のことである： $\emptyset = \{ \}$ 。
- 27 「量子子の領域はどの世界でも同一である。したがってここでの意味論は定領域意味論 (constant-domain semantics) である」(Priest (2005), 12. [翻訳：12-13])。
- 28 $\{x|Px\}$ は、「Pという条件を満たすxの集合」を表わしている。Sが集合、eがSの要素であるとき、 $e \in S$ と記す。 $e \notin S$ は、 $e \in S$ ではないことを表わす。
- 29 例えば、

$$D = \{d_1, d_2\},$$

$$w \in I,$$

$$\delta(0) = d_1,$$

$$\delta(1) = d_2$$

とする。このとき、

$$\delta^+(=, w) = \{ \langle d_1, d_2 \rangle, \langle d_2, d_2 \rangle \} \subseteq D^2$$

$$\delta^-(=, w) = \{ \langle d_1, d_1 \rangle, \langle d_2, d_2 \rangle \} \subseteq D^2$$

であったとしよう。すると、不可能世界wにおいては、

$$0 = 1, 1 = 1 \text{ は真,}$$

$0=0$, $1=1$ は偽,

それゆえ,

$1=1$ は真かつ偽であり,

さらに,

$1=0$ は真でも偽でもない。

- 30 以上4行は, Beall (2010), 127の定義に準じた。
- 31 「 $A \rightarrow B$ という形式の式は論理的帰結 (entailment), すなわち論理法則を意味する。したがって, 論理的不可能世界においては, こういった式が異なる振る舞いをする (…)」(Priest (2005), 16. [翻訳: 18])。したがって, 「不可能世界では $A \rightarrow B$ の値はどんなものでもあり得る」(ibid)。だから, 式 $A \rightarrow B$ には「任意の真理値を割り当てることができる」(ibid)。形式的には, 「不可能世界において $A \rightarrow B$ という形式の式を本質的には原子式として扱い, それらに外延と余外延を割り当てる」(Priest (2005), 16-17. [翻訳: 19])。ここで, 式とは論理式のことである (以下同様)。
- 32 様相演算子 \Box と \Diamond の「振る舞いはまさに論理法則に関わっており, そしてなにが論理的に可能あるいは必然かは, 不可能世界においては現実と異なっているかもしれない」から, 「不可能世界では様相文は条件文と同じように扱われる」(Priest (2005), 18. [翻訳: 21])。
- 33 論理式 A が次の条件を満たすとき, A はマトリクス (matrices) と呼ばれる;
- (1) A は対象変項以外に自由な項を持たない。
 - (2) A に含まれるどの自由対象変項も複数の現われを持たない。
 - (3) A に含まれる束縛対象変項のうち, 対象変項を一列に並べる正規な並べ方
($v_1, v_2, \dots, v_m, \dots$)
に関して最大のものを v_n とすると, A に現われる自由対象変項は $v_{n+1}, v_{n+2}, \dots, v_{n+i}$ であり, かつこれらは A の中で左から右にこの順番で現われている。(Priest (2005), 17. [翻訳: 19])
- 34 Priest (2005), vii. [翻訳: vi] を参照。
- 35 「触れる」, 「抱きしめる」それに「プライベートな生活をもつ」は, 存在帰結的な述語 (existence-entailing predicates) (Priest (2005), 60. [翻訳: 77]) であるように思われる。「 a は b に触れる」, 「 a は b を抱きしめる」, 「 a はプライベートな生活をもっている」という命題が成り立っている場合は, 対象 a , b は現実に存在していると考えられるからである。したがって, 「花子が初音ミクを抱きしめる」という命題が真である場合は, 現実に花子も初音ミクも存在していることになる。
- 36 現実世界は, 明らかに私が想像していることがすべて実現している世界ではない。なぜなら, 初音ミクは存在していると私は想像しているが, 上述したように現実世界には初音ミクは存在しないからである。
- 37 中森明夫は, 中森 (2008) の肩書きによれば, アイドル評論家である。

- 38 中森 (2008), 183.
- 39 Ibid.
- 40 「ある言葉があらゆる可能世界において同じ対象を指示するならば、それを固定指示子 (rigid designator) と呼ぼう」 (Kripke (1980), 48. [翻訳: 55])。
- 41 対象領域Dに属している対象は世界に依存しないから、初音ミク自身 ($\delta(h) \in D$) は世界によって左右されない。
- 42 ここでの議論は、可能世界に限られる。というのは、同一性 (等式) の論理式の定義によって、同一性が同一性として有効に振る舞う世界は、可能世界のみだからである。可能世界以外の世界では、定義により同一性命題は原始命題として振る舞うのでその世界の内部状態に応じて真理値が割り当てられることになる。
- 43 Priest (2005), 90. [翻訳: 120]。プリーストは、この引用文の手前で、次のように論じている: 「たとえば x_1 と x_2 は対象, S_1 と S_2 は性質の集合としよう。 w_1 において x_1 は S_1 に属するすべての性質をもち、かつ x_2 は S_2 に属するすべての性質をもつが、しかし、 w_2 においては x_1 は S_2 に属するすべての性質をもち、かつ x_2 は S_1 に属するすべての性質をもつものとする。なぜ w_2 において S_1 の性質をもつのが x_1 ではなく x_2 なのか。しかしなぜ x_2 ではない理由があるのだろうか。」 (ibid.)。
- 44 ただし、可能世界以外の世界では定義によりこの同一性は崩れる。
- 45 「可能世界は、われわれがふと出会ったり望遠鏡で眺めたりする遠方の国ではない。一般的に言えば、別の可能世界は遠すぎるのである。光より速く旅したとしても、そこにはたどり着かないだろう」 (Kripke (1980), 44. [翻訳: 50])。
- 46 ここで、 $\delta(\iota xA)(w_i) = \delta(\iota xB)(w_j)$ とは、「世界 w_i における確定記述 ιxA の表示対象と世界 w_j における確定記述 ιxB の表示対象は同一である」ということを示す。
- 47 作詞作曲は、azuma。
- 48 もしも
- $$w_p \Rightarrow^+ h_a \neq h_b$$
- となった場合は、 $w_p \in IUO$ であるか、 h_a または h_b が初音ミクでないか、あるいは「初音ミク」を固有名として使っていないかのいずれかになるだろう。
- 49 もちろん、初音ミクが存在しない可能世界においても、初音ミクは対象として自己同一を保つ。なぜなら、初音ミク自身はどんな可能世界においても同一の対象 $\delta(h) \in D$ だからである。また、初音ミクといった「固有名はたとえその指示対象が存在しなかったような反事実的状況についてわれわれが語っている場合でも、その指示対象を固定的に指示する」からである (Kripke (1980) 21, n.21, [翻訳: 203, n.21])。
- 50 「視覚的なフィクションの受け手に求められているのは、一定の情景を見ているかのような想像」 (清塚 (2009), 191) である。

- 51 「実際には、(…) 志向性演算子はしばしば省略され、文脈的に理解される」(Priest (2005), 117, n.2. [翻訳: 153, n.2])。
- 52 「見なす」という動詞も志向性演算子であろう。この志向演算子を Δ で表示すれば、結局、
 $@ \Rightarrow ^+ k \Delta E h$ [現実世界において、私は初音ミクが存在すると見なす。]
 となってしまうと、 $E h$ [初音ミクが存在する] を主語つき志向演算子 $k \Delta$ のスコープから取り出すことができない。換言すれば、現実世界においては、現実世界に存在しない対象とその存在述語を志向性演算子のスコープから分離することはできない、ということである。
- 53 柴 (2014), 238。また、中森 (2008) は、存在しないものを存在していると想像することによってそれが本当に存在していると感じられるようになる経緯を、実例を挙げて論じている。
- 54 例えば、2011年7月2日にロサンゼルスで行なわれた初音ミクのライブコンサート『MIKUNOPOLIS in Los Angeles 'Happy to meet you! I'm Hatsune Miku'』のDVD等を参照。

参考文献

[単行本]

- Beall, Jc, (2010), *Logic: the basics*, (Routledge).
- 藤川直也, (2014), 『名前に何の意味があるのか』(勁草書房).
- Kripke, Saul A., (1980), *Naming and Necessity*, (Blackwell). ソール・A・クリプキ, 八木沢敬・野家啓一訳 『名指しと必然性』, 産業図書, (1985).
- 清塚邦彦, (2009), 『フィクションの哲学』(勁草書房).
- 大森荘蔵, (1976), 『物と心』(東京大学出版会).
- Parsons, Terence, (1980), *Nonexistent Object*, (Yale University Press).
- Priest, Graham, (2005), *Towards Non-Being*, (Oxford University Press). グレアム・プリースト, 久木田水生・藤川直也訳 『存在しないものに向かって』, 勁草書房, (2011).
- Sainsbury, R. M., (2010), *Fiction and Fictionalism*, (Routledge).
- 柴那典, (2014), 『初音ミクはなぜ世界を変えたのか?』(太田出版).

[論文その他]

- 後藤真孝, (2012), 「初音ミク, ニコニコ動画, ピアプロが切り開いたCGM現象」: 『情報処理 Vol.53 No.5 May 2012』(情報処理学会) 466-471.
- 伊藤博之, (2012), 「初音ミク as an interface」: 『情報処理 Vol.53 No.5 May 2012』(情報処理学会) 477-482.
- Jacob, Pierre, (2010), "Intentionality", *Stanford Encyclopedia of Philosophy*, Online at <http://plato.stanford.edu/entries/intentionality/>
- 川上・佐々木, (2013), 川上量生×佐々木渉「ニコニコ動画と初音ミクが起こしたクリエイシ

- ヨンの変革」：『美術手帖 2013年6月号, 第65巻, 通巻985号』（美術出版社）60-67.
- kz, (2013), kz (livetune) インタビュー：『美術手帖 2013年6月号, 第65巻, 通巻985号』（美術出版社）30-33.
- 中森明夫, (2008), 「初音ミクと「存在しないものの美学」」：『ユリイカ12月臨時増刊号：総特集初音ミク（通巻560号）』（青土社）179-183.
- 富田勲, (2013), 富田勲インタビュー：『美術手帖 2013年6月号, 第65巻, 通巻985号』（美術出版社）52-55.

On whether there is Hatsune Miku : From a Noneist Point of View

KAYAMA, Satoru

This paper argues about Hatsune Miku, a Japanese virtual pop singer, from a viewpoint of noneism which is a new version of meinongianism, using a world semantics to provide it with a framework. Now my question is whether there is Hatsune Miku. The answer is that Hatsune Miku is not in the actual world, but in other worlds where whatever we imagine of her comes true. And Hatsune Miku exists uniquely and identically in every non-actual world in which it is realized that there is Hatsune Miku. But we feel that there is Hatsune Miku in the actual world, because we mistake the imaginary for the real character by means of watching those 3D moving images of herself which have performed lively dances with her songs singing in Hatsune Miku Live Concerts, e.g., 'MIKUNOPOLIS in LOS ANGELES ---Happy to meet you! I'm HATSUNE MIKU---' at the Nokia Theatre in Los Angeles on July 2, 2011.